

名前に「翔」がつく2人の若手職員が連載した企画「モー突進レポート 翔たいむ」。2019年6月号の広報「もせうし」に掲載されてから43回目を数える今回の2023年新年号で最終回を迎えます。思い出深い過去の掲載写真とともに、担当した初代・笹尾翔大主事と2代目・田村翔惟主事の2人に感想を聞きながら、当時は振り返ります。

最終回

モー突進レポート

翔 SHOW TIME 翔たいむ



NHKの番組「北海道スタジアム 夏ノ陣」に臨んだ初代・笹尾主事（右）と2代目・田村主事のツーショット写真。2021年8月号から



2019年6月号から  
翔たいむがスタート

これ、何をしている写真だか分かりますか？記念すべき第1回目の翔たいむで、太極拳サークル「ローズマリー」の活動に参加させていただいた時の様子です。決して、踊っている訳ではありません（笑）

ゆっくりと身体を動かす太極拳の動作に、運動が苦手な僕も「これなら出来そう」と楽観的な印象。ところが、練習が始まると、足がプルプルと震え、額から大粒の汗が流れました。

とても若々しいサークルメンバーの皆さんの姿を覚えています。

当時の私は20歳になったばかり。息切れしながら、年齢相応の若さを取り戻す決心がついた体験レポートでした（笑）

## ご愛読ありがとうございました

コロナ禍のイベント規制で翔たいむの企画に頭を悩ませていた2022年の冬。和やかな広報企画会議の冗談から始まった「ゆるーく 冬キャンプ」は、僕が体験した中で一番過酷な企画になりました…

1人で冬のキャンプを楽しむという、若さとガッツあふれる体当たり企画。日中にデスクワークを済ませ、夜間にムービングハウスの前でキャンプの準備を始めました。

ところが、風除け用のタープを張る地面が凍り、ペグを打ち込むにもひと苦勞。外気温はマイナス8度でしたが、冷たい風が僕の体感温度をさらに下げることになります。

かじかむ手をなんとか動かしながら、チーズ入りのアヒージョを調理。顔が痛くなるほどの寒さでしたが、カメラを向けられると、冬キャンプの楽しさを伝えることに必死だったことを覚えています。



2022年3月号の  
冬キャンプ企画



2020年7月号では  
田植え体験中に転んでしまった場面も



2021年12月号では  
「from ☆ Moko」のしっくい塗りに挑戦



2022年6月号では  
JR妹背牛駅から函館線に乗車